［講演］

ベトナムにおける日本語教育事情及び日本留学の動向と課題

ベトナム国家大学ハノイ校
外国語大学日本言語文化学部
タン　テイ　ミビン 氏

○藤田　初めに、タン・テイ・ミビン先生にご講演いただきます。ご講演のタイトルは「ベトナム中高校における日本語教育事情について」です。それではミビ先生、よろしくお願いいたします。

○ミビン　ありがとうございます。ベトナムの国家大学ハノイ校外国語大学のミビンと申します。よろしくお願いいたします。では、早速発表させていただきます。まず画面を共有させていただきます。**【スライド①-1】**

本日の主な発表の内容は、こちら 3 つのポイントについて発表させていただきたいと思います。まず簡単に、日本におけるベトナムの日本語教育の事情を簡単に述べさせていただき、その後、小中学校における日本語教育の展開と現状について簡単に述べさせていただきます。最後にベトナムの高校における日本語教育の展開と現状です。これをメインの内容にしたいと思います。**【スライド①-2】**

最初にベトナムにおける日本語教育の事情ですけれども、参考資料として、ベトナムにおける Japan Foundation の資料を引用いたしました。こちらをご覧になっていただくとわかると思いますが、ベトナムにおける日本語学習者は最近非常に増えていて、2015 年と 2018 年とで差が大きくなっています。2015 年にはまだ 6 万人ぐらいですけれども、2018 年には 3 倍ぐらいに増えています。ベトナムで小学校から大学までの日本語教育も非常に世論の関心を集めています。**【スライド①-3、4】**

本日のメインテーマは、ベトナムの小中高の日本語教育ですが、ベトナムは 2016 年ぐらいに中等教育に日本語教育を導入しました。その後、中学校とか、主に高校で日本語教育を展開して、その後 2016 年ぐらいまで、そのプロジェ

クトを主に日本の Japan Foundation、そしてベトナムの教育訓練局がかなり力を入れて、ベトナムの中学校とベトナムの高校に日本語教育を展開しました。最近は、小学校にも日本語教育が導入されています。**【スライド①-5】**

まず、小学校のほうは最後に導入されていますが、最初に簡単にまとめます。2016 年は初等教育における日本語教育の試行期間で、ハノイで 4 つの小学校と、ホーチミンで 1 つの小学校で日本語教育が始まりました。人数もかなりありますが、年々、少しずつ減っています。**【スライド①-6】**ベトナムにおける小学校の日本語教育の主な目的は日本文化とか日本語について興味を持ってもらうといった内容なので、最初は日本語能力をまだ重視されていないという考え方もあるかもしれません。現段階はまだ試行中という段階ですが、週 4 コマぐらい勉強しています。主に第二外国語として日本語教育を行っています。**【スライド①-7】**

次に、ベトナムにおける中学校の日本語教育です。たくさんの中学校で日本語教育を行っています。人数はまだ統計の数字に出ていないですが、北部は 45 校、中部は 7 校、南部は 8 校の中学校が日本語教育を行っています。**【スライド①-7】**

ベトナムにおける中学校の日本語教育の特徴は、ベトナムの教育制度と関連があると思いますが、外国語大学附属中学校以外は全て、ベトナムの教育訓練局に管理されていて、最初のデザインは、主に国際学校や英才中学校に導入するというものでした。最近は中学校とか高校からの留学傾向も強まっていますので、日本語を勉強させると考える親もかなり多くなっています。**【スライド①-8】**

先ほど申し上げたのですけれども、小・中学校における日本語教育は、日本語と日本文化への興味を持ってもらうというようなことを目的としていたので、日本政府、そして Japan Foundation の支援を多くいただいております。最近は日本語の学習環境もかなり改善されていて、教育活動とか学習活動も、日本語力を強化するために、いろいろな形が生まれています。小学校とか中学校のための日本語の塾、あるいは日本語センターも増えていて、家庭内でも日本語教育を行っている例があります。**【スライド①-9、10】**

続いて、ベトナムにおける高校の日本語教育に移りたいと思います。先ほど紹介した通り、日本語教育を行っている中学校の数は非常に多いのですが、高校ではその数がかなり減っています。このような機関数の差から、中学校で勉強した日本語学習者たち、あるいは日本語を勉強した子どもたちは、高校で続けて勉強をできないという現状があります。また、高校で日本語教育を行っているんだけ

れども、現段階では主にハノイとかホーチミンとか、中部における拠点高校に注目されています。つまり、日本語教育がこれらの高校に主に力を入れているという現状があります。

また、ベトナムの教育訓練局の方針については、外国語教育もとても大切ですが、教科学習、あるいは文化科目を優先する考え方もまだ強いです。もちろん外国語、英語と並び、日本語、韓国語なども一応大事に扱われていますが、一般の教科科目のほうを重視する考え方がまだ強いということをお伝えしておきたいと思います。**【スライド①-11】**

本日、ベトナム全土の高校における日本語教育を網羅的にまとめることはできないので、私の身近で、外国語大学附属高校を事例として紹介させていただきたいと思います。これから述べるデータや情報は、日本語専攻講師のインタビューによってまとめた内容です。最初に外国語大学附属高校について簡単にご紹介します。外国語大学附属高校は 1964 年に設立されて、教員数は 110 人ぐらいです。そのうち、日本語教師は 6 人です。日本語学習者数は現在 540 人です。日本語の履修方法は、第一外国語として、または第二外国語としての 2 つのパターンがありますが、これについては、この後すぐ説明いたします。現在、附属高校の総学生人数は 1,500 人います。**【スライド①-12】**

先ほど申しましたように、日本語学習者は 540 人いますけれども、その中で第一外国語として日本語学習をしている人は 240 人、第二外国語としての日本語教育の学習者は 300 人です。以前は、日本語を第一外国語と第二外国語それぞれ 300 人でしたが、最近、国家大学外国語附属高校は、ちょっと人数を抑える方針をしています。それで、第一外国語としては人数が減って、第二外国語としての日本語学習者が増えています。この数から見ると、日本語の勉強について興味を持っている生徒もかなり増えていると思われます。**【スライド①-13】**

外国語大学附属高校における日本語では、一般の教科書ではなく独自の教科書を使っています。一般のベトナムの高校では、教育訓練局に管理されているので、教育訓練局の発行した教科書を使っていますが、外国語大学附属高校は独自の教科書を使っています。この教科書は、外国語大学がつくった教科書です。外国語大学附属高校の学習カリキュラムや、学習内容、教育内容なども、一般の高校と違っているとのことです。**【スライド①-14】**

現在、1 週に約 8 コマ勉強しています。そのうち、6 コマをベトナム人の先生

が担当して、2 コマを日本人の先生が担当しています。大体卒業までは N2 レベルぐらいを習得する人が一番多く、その次が N1、N3 です。日本語力は、附属高校のほうが一般の高校よりも教育の目標を達成しているのではないかと私は考えています。**【スライド①-15】**

なぜ、外国語大学附属高校の生徒たちがこのような高いレベルを達成できるかというと、この高校の入試が非常に厳しく、優秀な学生しか入れないからです。また、入学した生徒たちは、かなり学力を持っているからです。入試のときもそうですが、現在、勉強していても、教科学習、一般の文化科目のほかに、日本語、英語、両方を勉強しているので、言語のセンスを持っている人じゃないとついていくのが難しいです。入試は、非常に厳しく、競争力も高い高校です。

また、この高校に入るために、中学校、小学校のときから、親が外国語大学附属高校入学という目標を持っていて、学習方法とか勉強方法をしっかり子どもたちに身につけさせるような考えが強い傾向があります。それで、ある程度、学習方法もしっかりしている子どもたちだとも言えます。

もう 1 つの原因としては、外国語大学に附属しているので、教授法とか、教科学習の内容を含めて、一般の科目とのバランスをとって勉強できるカリキュラムをちゃんと考えているのではないかなと私は考えています。**【スライド①-16】**

現在の段階ですけれども、この間、日本語専攻を担任した、担当した先生たちのインタビューによると、N1 を持っている生徒は 30 名、それから N2 を持っているのは 120 名ぐらい、N3 を持っているのは 50 名、そのほかは日本語能力試験をまだ受けていないということ、あるいは、結果待ちのため、残りの人数はまだわからないということです。入学時点で、ほとんどの生徒の英語力が高く、IELTS であれば 6.5 くらいを持っている人が多いということがインタビューからわかりました。**【スライド①-17】**

留学志向については、コロナの影響など今年のいろいろな影響を受けて、実現はこれからですけれども、既に外国の大学の入学先が決まっている人が 50 人います。その中で、日本の大学は 45 名、アメリカとか EU のほうが 5 名です。それから、留学計画中というのは、これから留学する予定、また、留学したい、家族、保護者たちが考え中というのは 70 名です。まだ予定がない、まだ計画がない生徒、子どもたちは 50 名です。そして国内大学で勉強したい生徒は今、20 名ほどいます。**【スライド①-18】**

これらの数字は、4 年生ではなく、3 年生と 2 年生も含んでいますけれども、みんな日本などの外国の大学に留学する場合は、2 年生を終わって留学する人が多いとインタビューからわかりました。

ほとんどの生徒は日本の大学の奨学金を受けますけれども、もっとも人気が高いのは日本政府の奨学金で、現在、この奨学金を決まっているのは 5 名ぐらいです。そのほかは、附属高校と協定を結んでいる大学、これらの大学に、学費免除、全免除とか、あるいは一部免除されて、日本の大学へ留学します。もちろん、私費留学を考えている生徒たちもいますが、数としてはそんなにまだ多くなく、15 名ほどです。**【スライド①-19】**

附属高校の生徒の特徴に帰国子女の生徒が多いことがあります。その子どもたちが日本で勉強したので、親の赴任が終わりベトナムに帰国した後、もう一度日本へ戻って日本の大学で勉強したいという気持ちが強いということをインタビューから伺っています。

奨学金の種類には、日本の文部科学省の奨学金、JASSO やローソンの奨学金、また、日本の協定校の奨学金などあります。

附属高校の人気留学先は、大阪とか福岡、慶應、東洋、兵庫、神戸など、国立大学を狙っている人が多いです。私費留学する生徒たちは、さっきも申し上げたように、帰国子女が多いです。これらの生徒は、日本で生活し、日本の高校や中学校で勉強した経験があるので、ベトナム帰国後、非常にカルチャーショックというか、教育環境ショックみたいな経験があり、必ずまた日本に戻りたい、日本でまた勉強を続けたいといった考えが強いので、特に、例えば奨学金を受けなくても、日本へ留学するケースが多いです。**【スライド①-20】**

留学の条件ですけれども、担当の先生の話によると、現在、文部科学省の奨学金とか、JASSO の奨学金、ローソンの奨学金、また附属高校との協定校の条件としては、AGU の試験に合格したことと、また英語、IELTS が 6.5 からの点数じゃないと、ちょっと奨学金をもらえないとか、あるいは留学できないとか、そういうことがあります。**【スライド①-21】**

日本語専攻の生徒たちは全員人文社会学系ですので、経済や、国際、言語、教育についてさらに大学で勉強したいと考える人が多いです。それから、現在ベトナムでは、IT 関係の仕事は待遇がとてもよいので、社会系でもこちらに目を向けている人が多いです。つまり、日本へ留学して、日本の大学で勉強していく場

合は、経済とか、国際、言語、教育に関する専攻を勉強したい生徒が多いのが今の状況です。**【スライド①-22】**

先ほども少し申し上げましたが、国家大学外国語大学附属高校の特徴として、生徒が入学時から必ずどこか留学すると明確な目的を持っている点があります。また、こちらも先ほどの繰り返しになりますが、帰国生と帰国子女の子どもたちが、最近大勢日本から戻ってくるので、その子どもたちの日本語能力が非常に高いという点があります。ほぼ全員、日本人の子どもたちとあまり変わらないです。授業の中でも日本語のほうが得意で、ベトナム語はあまり使えないということも、私がときどき見かけています。こういった子どもたちは、ベトナムの大学に行っても、ちょっと難しいというか、勉強することも、みんなに適応するのも大変ではないかと思っている親が多いので、日本をはじめ、どこか海外の大学に行かせるという考え方が強いです。

また、附属高校は、国際関係の担当者がいて、留学や国際交流に力を入れているので、こういう高校の考え方、方針により、生徒たちも、海外に留学する希望がほかの一般高校に比べると強く、進んでいます。**【スライド①-23】**

こちらは今年ではなく、2018 年度に調査したデータで、当時、生徒を 105 名しか調査できなかったんですが、2018 年の時点で N1 を持っている生徒は 14 名、N2 は 37 名、N3 は 30 名、N4 は 24 名でした。先ほど申し上げた数と比べると、現在はかなりレベルが上がっているのではないかと思います。**【スライド①-24】**

こちらも 2018 年に調査した結果ですが、留学を考えている生徒 105 名の中で、留学したいという生徒が 47 名、したくないは 24 名、それから考え中、行くかどうか迷っているという生徒が 22 名でした。そのほか、ベトナムで勉強するとか、あるいは何らかの理由で、そういうことがまだできないという回答が 12 名でした。**【スライド①-25】**

こちらも 2018 年度に実施した調査結果ですが、奨学金への期待とか、学費免除の期待、また、受験の基準を少し緩和してほしいといった生徒の期待をまとめてあります。特に今、ほとんどの生徒は高校 2 年生になると、日本の大学へ留学する場合は EJU の試験を必ず受けないといけないという考えを強く持っています。この試験はベトナムで受けられますが、日本語以外に、数学など、いろいろな科目も受けないとならず、生徒たちへの負担が大きいと私は考えています。

もし、この試験がなかったら、もう少し気楽に日本の大学に行けるように思います。また、日本の大学の入試は、面接または小論文、もしくはこの両方が必要な大学が多いので、入学試験も生徒にとってかなり負担が大きいのではないかと私は考えています。もう 1 つは、日本の大学は、英語で勉強する大学が少ないので、日本語能力を十分持っているかどうかという心配も出ています。そのほか、英語、結構、この附属高校に入った生徒たち、子どもたちは英語力がしっかりしているので、日本の大学へ留学する場合、英語が維持できるかどうかといった心配も感じています。特に親たちは、日本語ももちろん大事だけれども、英語も小学校から勉強しているので、英語力を保てないならちょっともったいないと考えています。**【スライド①-26】**

こちらは、もし日本の大学に進学する場合、どんな課題があるかについて簡単にまとめたスライドです。まず経済的な課題が大きいです。先ほどご紹介した、ベトナムの高校生の期待が、学費の免除または一部免除であることを裏付けています。生活費もそんなに安くないですから。そのほか、日本語レベルが N1 や N2 であっても、教科学習に応じられるレベルかどうかについての心配があります。学習の内容を理解できるか、また、日本の大学の教科書を理解できるかどうか、それが心配です。最後は主に親の心配ですが、日本の生活に慣れるかどうか。子どもたちが日本で自立できるかどうかです。**【スライド①-27】**

進学については、情報不足、現在は、そんなに情報不足ではないですが、EJU の課題がまだ大きいの壁ではないかと思います。そのほかの意見として、日本の大学の教育は柔軟性が少ない、欠けているという意見もあります。教授法など教育の手法、方法がベトナムと違うといった心配もあります。最後に、子どもたちがなかなか友達を作れないという心配もあります。**【スライド①-28】**

このほか、先ほども少し触れましたが、日本の大学はよい大学が多いので、どの大学に進学するか迷うが、その判断に役立つ情報がまだ少ないということです。英語力が落ちるのではないかという心配もあります。それから就職環境がよいかどうか、就職できるかどうかという心配もあります。地震問題の情報は、非常に少ないという意見もありました。**【スライド①-29】**

こちらは私の個人的な考えですけれども、先ほど申し上げたように、ベトナム高校における日本語教育の導入は、ベトナムの教育訓練省、あるいは教育訓練局による管理のもと導入されたし、日本語という言語は非常に難しい言語ですので、

初めは英才高校しか導入しないという考えがありました。国家大学外国語附属高校は英才高校の１つですが、ベトナムの他の地域にも英才高校はあります。現在、ベトナムの主要都市で、日本語教育を行っている高校は、その地方の英才高校ですので、これらの高校の生徒たちも教科学習、基礎科学など、基礎学力があります。地方都市には、ハノイほどの留学情報や協定校情報がありませんが、そちらの生徒たちも、これから留学を考えたりしていますので、新しい留学生を獲得するという場合は、地方都市の優良校も１つの選択ではないかと思います。

私の発表はここで終了したいと思います。ありがとうございました。**【スライド①-30、31、32】**

○**藤田**　ミビン先生、ありがとうございました。

それでは、時間の都合上、次の講演に移らせていただきます。ミビン先生へのご質問がある方は、最後の全体討議のときにお寄せいただければと思います。ミビン先生、ありがとうございました。

【スライド①-1】

ベトナムにおける日本語教育事情及び日本留学の動向と課題

2020年12月12日
THAN　THI　MY　BINH
ベトナム国家大学ハノイ校　外国語大学日本言語文化学部

【スライド①-2】

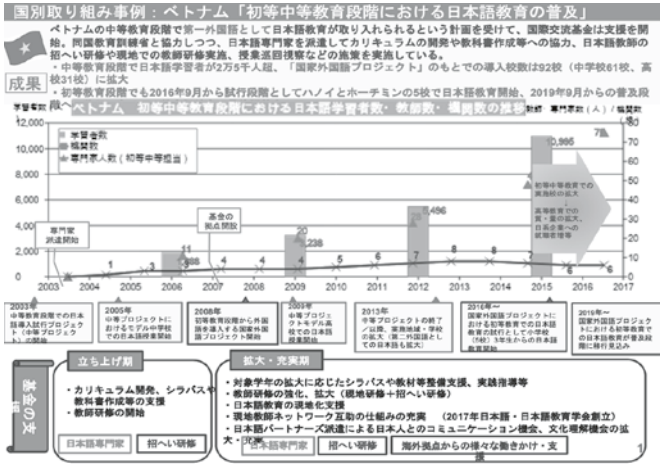
本発表内容
ベトナムにおける日本教育事情-中・高教育を中心に-

1. ベトナムにおける日本語教育事情（概観）

2. 小・中学校における日本語教育展開・現状

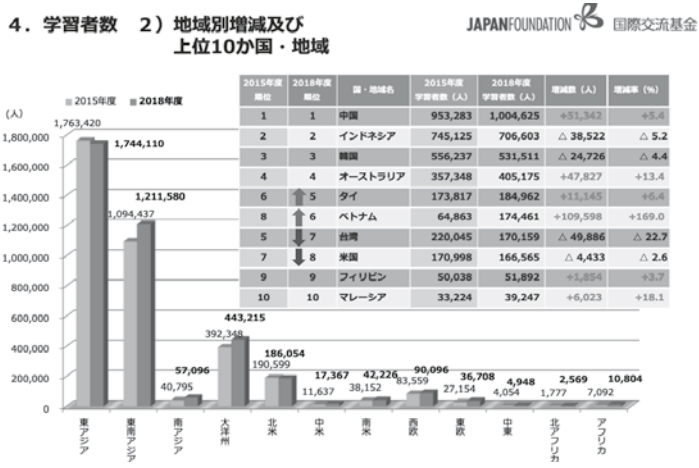
3. 高校における日本語教育展開・現状

【スライド①-3】



国際交流基金（2018年調査）より

【スライド①-4】



2015年度順位	2018年度順位	国・地域名	2015年度学習者数（人）	2018年度学習者数（人）	増減数（人）	増減率（%）
1	1	中国	953,283	1,004,625	+51,342	+5.4
2	2	インドネシア	745,125	706,603	△ 38,522	△ 5.2
3	3	韓国	556,237	531,511	△ 24,726	△ 4.4
4	4	オーストラリア	357,348	405,175	+47,827	+13.4
6	⇧ 5	タイ	173,817	184,962	+11,145	+6.4
8	⇧ 6	ベトナム	64,863	174,461	+109,598	+169.0
5	⇩ 7	台湾	220,045	170,159	△ 49,886	△ 22.7
7	⇩ 8	米国	170,998	166,565	△ 4,433	△ 2.6
9	9	フィリピン	50,038	51,892	+1,854	+3.7
10	10	マレーシア	33,224	39,247	+6,023	+18.1

国際交流基金（2018年調査）より

【スライド①-5】

2.ベトナムにおける小・中学校の日本語教育

2016
- 初等教育における日本語教育の試行期間（2016/9～2019/6）が開始

現在
- ハノイ４校・ホーチミン１校

学習者数
- 小3年：348名、小4年：317名、小５年：282名

【スライド①-6】

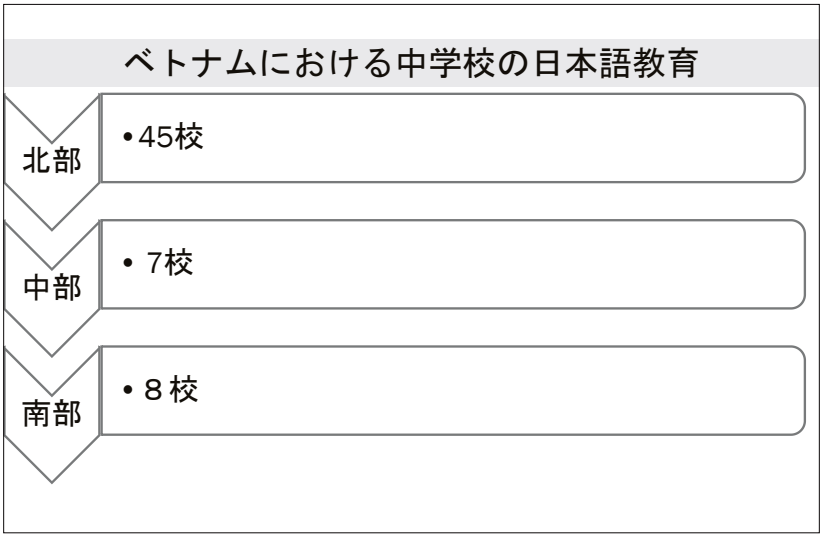
ベトナムにおける小学校の日本語教育

教科書
- 『にほんご３』試行中（JF支援）

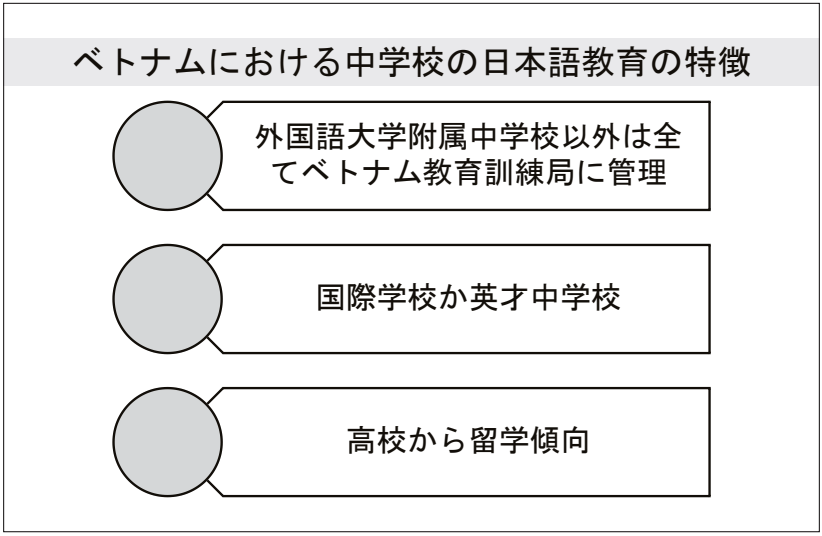
進呈
- ４コマ／週、1課：６コマ、全１６課

小卒
- １／６

【スライド①-7】



【スライド①-8】



【スライド①-9】

小・中学校の日本語教育の特徴

目的
- 日本語・日本文化への興味

支援
- 日本政府・JFの支援

学習環境
- 教育活動・学習活動・小学生・中学生のための日本語塾増加・家庭中心

【スライド①-10】

ベトナムにおける中学校の日本語教育

北部
- 45校

中部
- 7校

南部
- ８校

【スライド①-11】

3.ベトナムにおける高校の日本語教育

日本語教育実施機関数減（中と比較）

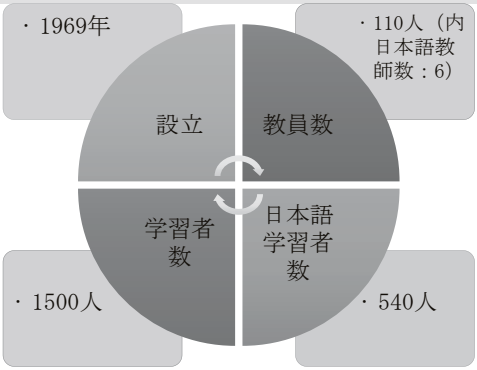
拠点高校

ベトナム教育訓練局（省）・文化科目優先

【スライド①-12】

2. 外国語大学付属高校事例

（日本語専攻主任講師のインタビューより。インタビュー実施日：2020年12月5日）



【スライド①-13】

国家大学外国語大学附属高校の事例

開始：2005年

現在：540人

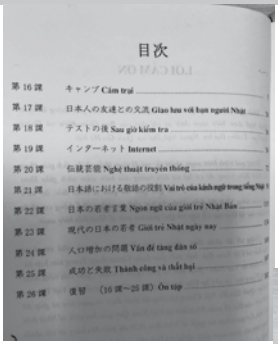
第1外国語としての日本語：240人

第2外国語としての日本語学習者：300人

外国語大学付属高校の日本語教育

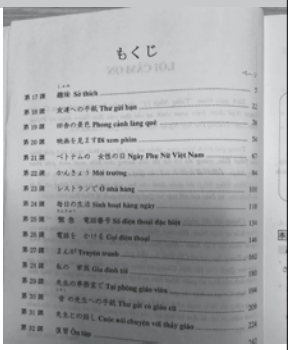
【スライド①-14】

日本語学習内容

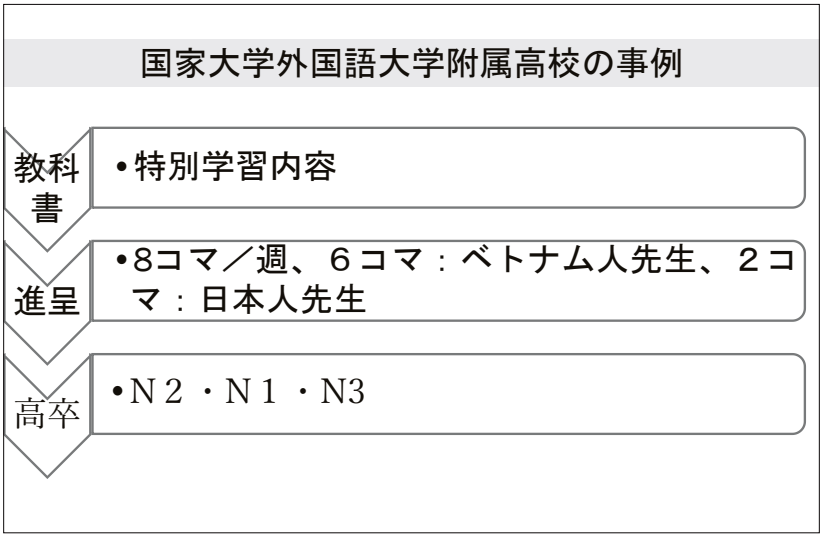


一般の教科書ではなく独自の教科書使用

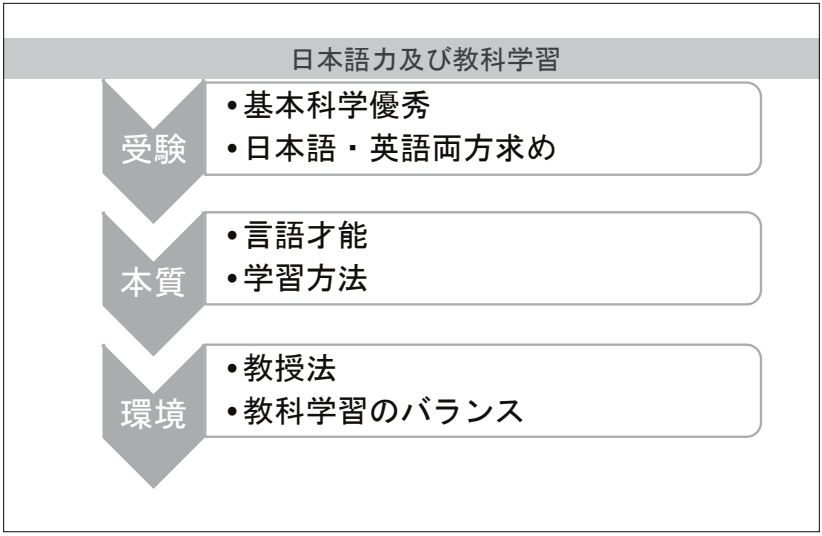
ハノイ国家大学外国語大学の直轄



【スライド①-15】



【スライド①-16】



【スライド①-17】

日本語・英語力（日本語専攻2020年現在）

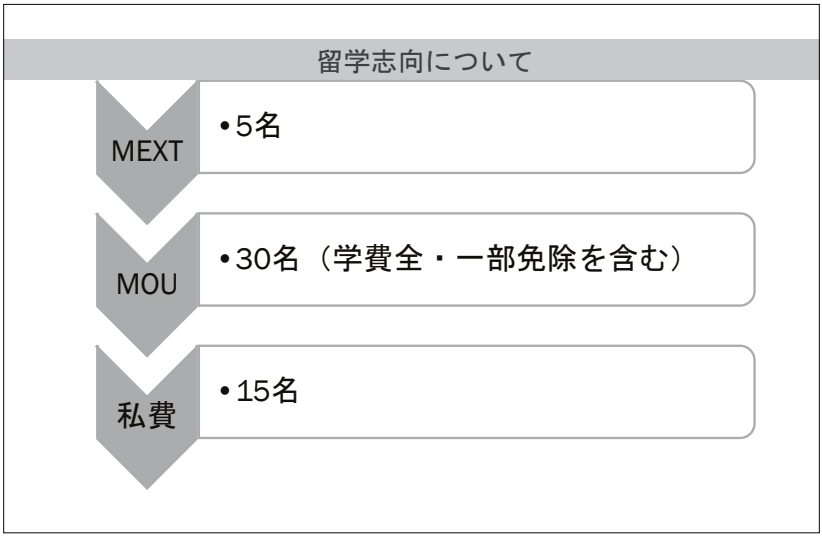
- N1：•30名
- N2：•120名
- N3：•50名
- 英語：•IELTS: 6.5~

【スライド①-18】

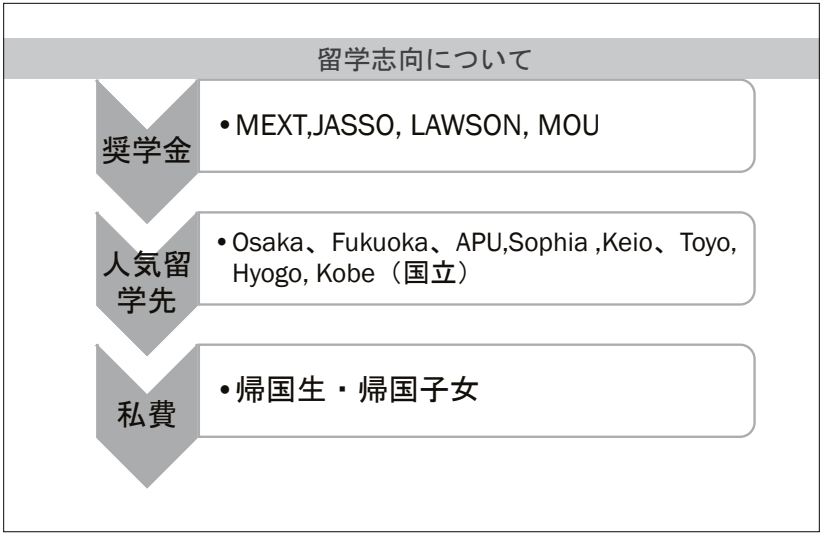
留学志向について

- 実施予定：•50名：日本大学：45名、アメリカ・EU：5名
- 計画中：•70名
- 未定：•50名
- 国内大学：•20名（日越大学・貿易大学・ULIS)

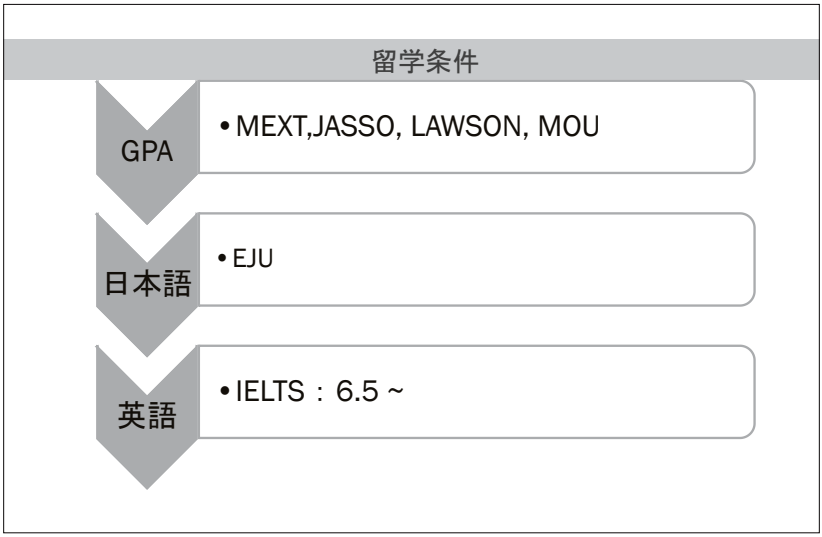
【スライド①-19】



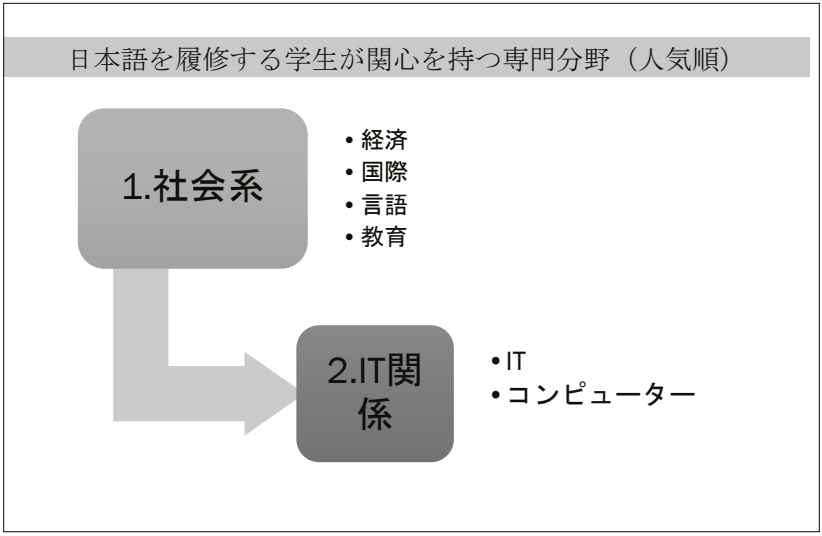
【スライド①-20】



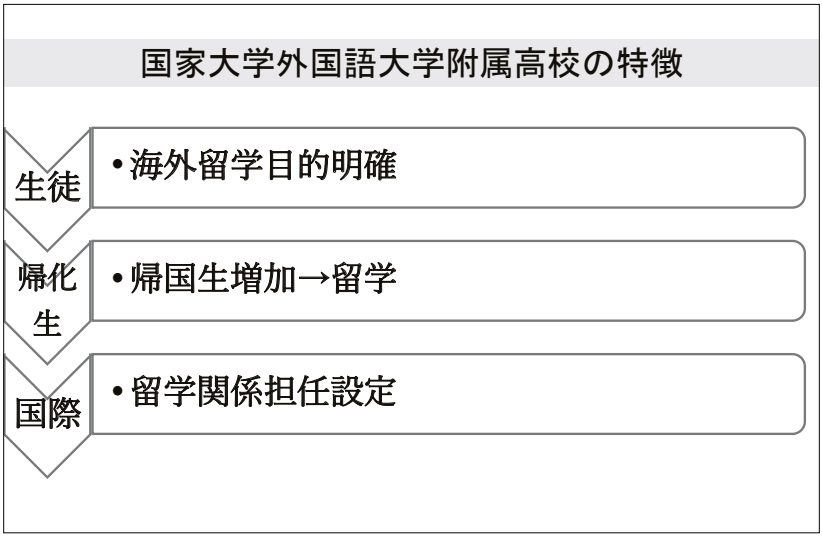
【スライド①-21】



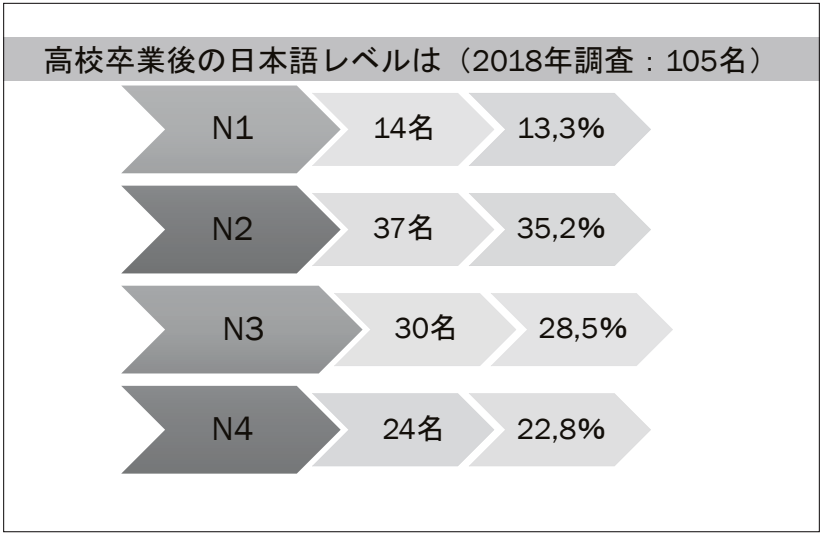
【スライド①-22】



【スライド①-23】



【スライド①-24】



【スライド①-25】

卒業後日本への留学を考えるか（2018年調査：105名）

Thinkstock by Unknown Author is licensed under CC BY-SA

✓	✗	考えや…	その他
47名（44,7%）	24名（22,8%）	22名（20,9%）	12名（11.4%）

【スライド①-26】

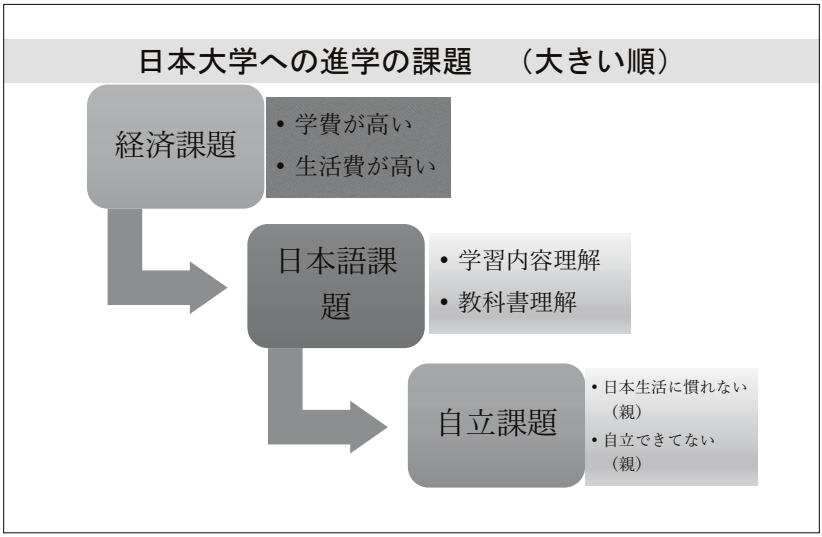
大学の受け入れへの期待（2018年調査）

奨学金
- 学費一部免除
- 奨学金増加

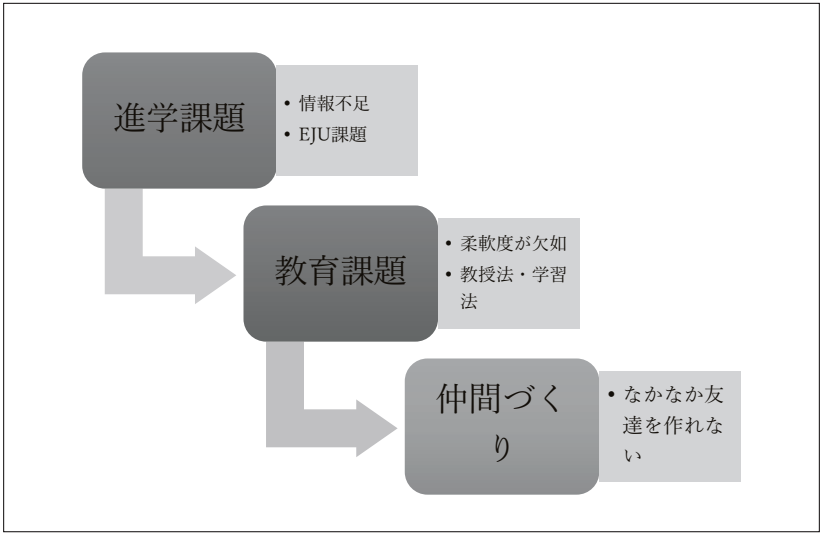
受験簡略
- EJU試験なし
- 面接か小論文のどちらか一つに

英語で学習
- 日本語だけではなく英語の教材使用
- 英語維持環境

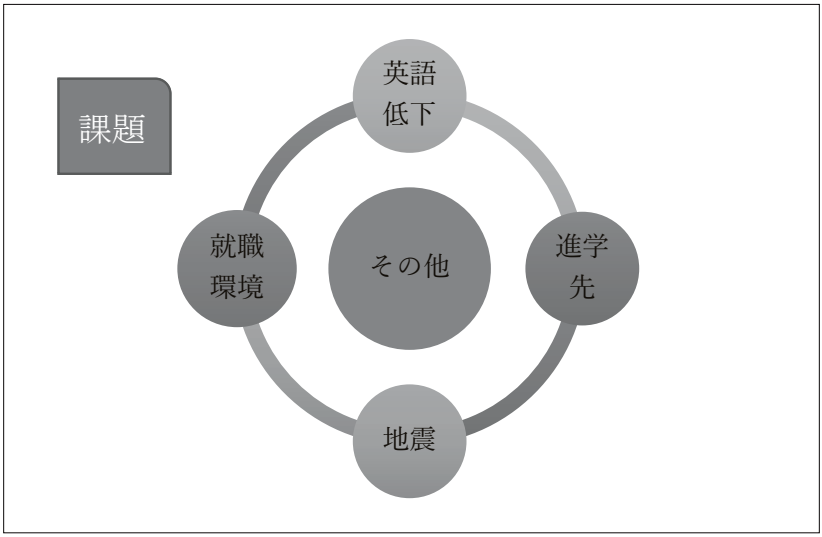
【スライド①-27】



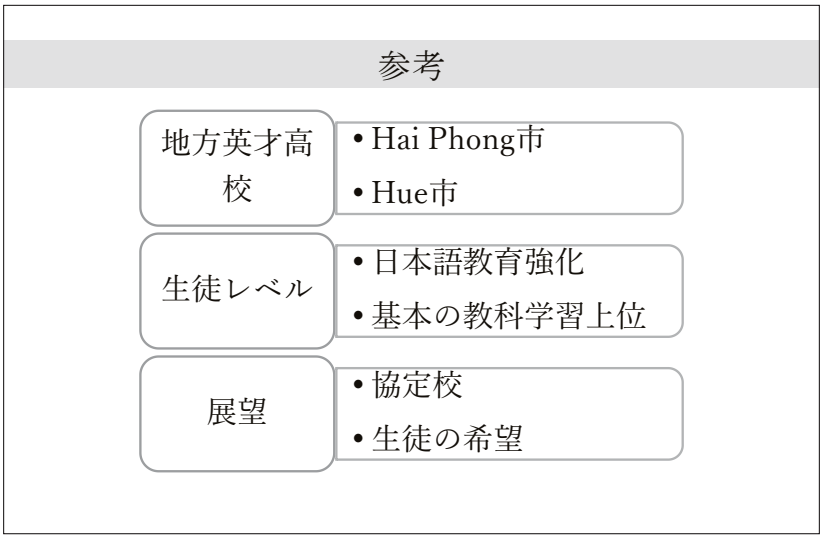
【スライド①-28】



【スライド①-29】



【スライド①-30】



【スライド①-31】

参考文献：

1. Cao Le Dung Chi(2017)『ベトナムの外国語教育政策と日本語教育の展望』大阪大学博士論文
2. Ngô Minh Thủy (2009)『Tiếng Nhật 11(日本語11）下』ベトナム教育出版社
3. Ngô Minh Thủy (2009)『Tiếng Nhật 12(日本語12）下』ベトナム教育出版社
4. Đào Thị Nga My (2018)「ベトナムの日本語教育の事情–現状と今後の期待」『日本語教育学会』世界の日本語教育–ベトナム
5. https://www.jpf.go.jp/j/about/press/2016/dl/2016-057-2.pdf

【スライド①-32】

ご清聴ありがとうございました！